

同志社ローム記念館大賞

トロフィー・賞状・副賞（10万円）

大賞

DR

同志社レスキューロボット プロジェクト（公募プロジェクト）



- プロジェクトリーダー
城 英樹（同志社大学 工学部）
- プロジェクト責任者
橋本雅文（同志社大学理工学部教授）
- メンバー数 29名

【授賞理由】

最終成果報告にもあったとおり、第1期から、より社会性豊かな活動へと進化しながら再エントリーを重ね、同志社ローム記念館プロジェクトを代表するチームに成長してきました。

本年度の活動においてその過程を記録することに重点を置いて進められましたが、Webの充実ぶりはすばらしく、レスキューロボットコンテスト出場者はもとより、ローム記念館の他のプロジェクトにもよい刺激になりました。本年度のプロジェクトの目標であった「まとめる」こと、それを実践していく取組姿勢がレスキューロボットのアイデアや出来栄だけでなく、まわりにより影響を及ぼすことを認められたからこそ、レスキューロボットコンテストにおいて「レスキュー工学奨励賞」の受賞に結びついたと言えるでしょう。

また、前年度から取り組んでいる「ものづくり教室」や、イベントで大活躍した「ブチレスコン」企画の運用においても、いかにわかりやすく伝えるか、いかに楽しさを伝えるか、という点でたくさんの工夫が重ねられ、レスキューロボットの認知、関心度の向上に役立てることができたと考えます。

次年度は、新たなテーマに挑戦されることとなりますが、これまでの活動を活かして、更なる飛躍を遂げられることを期待しています。

同志社ローム記念館大賞

トロフィー・賞状・副賞（5万円）

優秀賞

DR

easy京都観光 （公募プロジェクト）



- プロジェクトリーダー
今泉雅裕（同志社大学 工学部）
- プロジェクト責任者
加藤 敦（同志社女子大学現代社会学部教授）
- メンバー数 19名

【授賞理由】

ターゲットユーザとして「車いす利用者」、「自転車利用者」を選定し、明確な成果を設定してプロジェクトを進められました。プロジェクト運営の点でもメンバー間のコミュニケーションがはかられ、班ごとの活動も機能的であったことが見受けられます。

フリーペーパーに関するフィードバックを得るところまでいかなかったことは残念ですが、成果達成に向けて、フィールドワークや勉強会にも多くの時間を費やし、努力されました。社会貢献という意味において、活動のプロセス、そして成果に対しても、高く評価できます。活動を通して、車いすユーザをはじめ、活動を取り巻くさまざまな立場の人と係わりを持つ中で、いろんなことを学び、考えたことと思います。本年度の活動を礎として、次年度更なる発展を遂げられることを期待します。

● 記念品はピンバッジ！

同志社レスキューロボットプロジェクトをはじめとした5つの受賞プロジェクトのメンバーには、記念品としてオリジナルデザインのピンバッジが贈られた。



外部審査員特別賞

音楽療法の“宝物”・発信プロジェクト (公募プロジェクト)

本年度は、中間報告会、最終成果報告会に外部から審査員の先生方をお招きした。外部審査員特別賞は、外部審査員の先生方から、活動や成果が特に優れていると高く評価されたプロジェクトに贈られる賞で、授賞プロジェクトには、メンバー全員に賞状と、副賞として記念品が授与された。



- プロジェクトリーダー
中村花香 (同志社女子大学大学院 文学研究科)
- プロジェクト責任者
濱谷紀子 (同志社女子大学学芸学部特任教授)
- メンバー数 36名

【授賞理由】

- ・ まだまだ専門家も少ない「音楽療法」を広める活動は、社会貢献度も高い。
- ・ オリジナル曲の作曲や採譜など、地道な活動を行い、楽譜集を完成させた。

外部審査員奨励賞

同志社エコプロジェクト環境問題に係わるテレビ番組制作プロジェクト (誘致プロジェクト)

外部審査員の先生方から、活動や成果が高く評価されたプロジェクトに贈られる賞で、授賞プロジェクトには、メンバー全員に賞状と、副賞として記念品が授与された。



- プロジェクトリーダー
藤井春奈 (同志社大学 商学部)
- 参加企業・団体
同志社大学・株式会社KCN京都
京都府中小企業技術センター
有限会社ベルウッドクリエイツ
- プロジェクト責任者
横川隆一 (同志社大学 環境保全・実験実習支援センター所長
生命医科学部教授)
- メンバー数 10名

【授賞理由】

- ・ すばらしいプレゼンテーションであった。
- ・ 参加企業・団体からの指導を受けながら、実際に放映される「番組」を完成させるまでの努力は大変なものであったと考える。



Doshisha Plaza Award 2009



プロジェクトメンバー相互評価

ゴールデン・エッグ賞

新しい「シリアスゲーム」
教材企画プロジェクト (誘致プロジェクト)



本年度導入されたメンバー相互による「未来力評価」。最も多くのメンバーの「関心」を勝ち得たプロジェクトに贈られる賞が「ゴールデン・エッグ賞」で、授賞プロジェクトには、副賞としてデジタルフォトフレームとメンバー全員へ賞状、記念品が授与された。

- プロジェクトリーダー
平田直之 (同志社大学 経済学部)
- プロジェクト責任者
竹廣良司 (同志社大学経済学部教授)
- メンバー数 13名



MVP

(Most Valuable Project member)

学生相互による評価のひとつで、「リーダー」「ソフト開発」「デザイン」「スマイル」などの点ですばらしかったメンバーを選出。

- ベスト・プレゼンター賞 平田直之さん
(新しい「シリアスゲーム」教材企画プロジェクト)
- ベSTRリーダ賞 今泉雅裕さん (easy京都観光)
- WEBデザイン賞 西田龍司さん (easy京都観光)
- ベストデザイナー賞 尾谷尚宣さん (easy京都観光)
- ベストスマイル賞 加藤愛子さん
(音楽療法の“宝物”・発信プロジェクト)



同志社ローム記念館大賞発表会 コアスタッフレポート

「未来力!!」

ともにローム記念館で活動している学生同士、お互いが一番、普段の活動がどんなものなのかを知っているはず。

私たちはDR学生会議 (あるテーマについてローム記念館プロジェクトのメンバーが集まって話し合う) で、プロジェクトの垣根を越えて、学生の相互評価の必要性和基準について話し合いました。内向きになってしまいがちなプロジェクト活動の目を他プロジェクトに向けていく。そうすることで、自分たちの課題の発見や、他に負けては行かない! という気持ちを促すきっかけになればと思っています。

今回初めての実施にあたって、採用した評価基準は『未来力評価』と名付けられました。良いものはもちろん、面白いものや次にブレイクしそうなもの、今後改善の余地があるものなど、その『未来』に期待や興味が湧いたものを、評価していく

のです。そして最も得票数の多いプロジェクトに与えられたのが、「ゴールデン・エッグ賞」。学生の評価による賞が、初めて誕生しました。

この結果、たくさんのフィードバックをプロジェクトに渡すことができ、他プロジェクトの発表や、思い、意見にしっかりと耳を傾けるメンバーの姿勢も感じられ、とても有意義なものになったと感じています。この取り組みは、前回の反省をふまえ、2010年度も行っていく予定です。プロジェクトのよりよい成果、成長のためには、どんな働きかけが必要なのか、これを軸に、今後も活動を進めたいと思います。

同志社女子大学 学芸学部
情報メディア学科3年次生
中川 葵

